

第1回

御影公民館及び清水消防署御影分遣所 建設基本構想策定

検討委員会資料

2026年6月29日

1. 検討にあたり

(1) 10月頃までに「基本構想」をまとめます

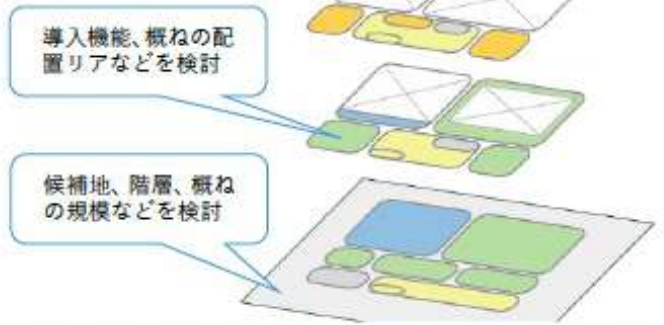
これからの御影地区にとって、複合を念頭に施設がどのような役割を果たすべきかを考え、必要な機能や大切にしたい考え方、場所などを整理する「基本構想」を検討します。

- 基本構想とは、「どんな建物にするか」「何㎡にするか」「どんな部屋をつくるか」を決めるものではありません。
- その前段となる、これからの御影地区にとって、どのような役割を持たせた複合施設にすべきかを考え、必要な機能や大切にしたい考え方を整理するものです。
- 例えば、地域の交流、防災、子どもや高齢者の居場所、行政サービス、使いやすさ、維持管理のしやすさなど、これからの施設に求められることを話し合い、設計に進むための条件を整えていきます。
- 基本構想は、建物の形を決める前に、「御影地区のこれからの必要な施設のあり方」を検討するものです。
- 基本構想をもとに、次の段階＝基本計画で具体的な規模や配置、部屋のつくり方などを検討していくことになります。

基本構想

- 施設整備のコンセプト、概ねの導入機能、規模、候補地、配置イメージなどの基本的な考え方を整理します。

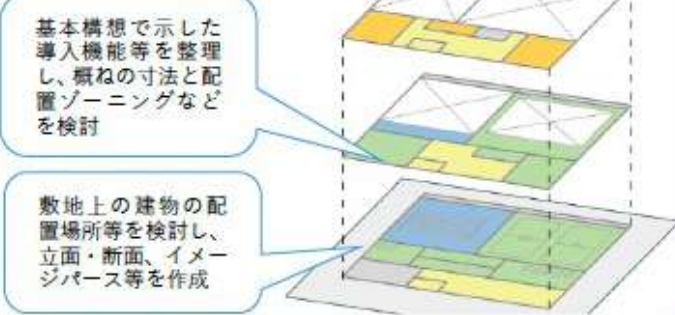
【イメージ】



基本計画

- 基本構想で整理した基本的考え方をもとに、設計と条件を整理し、敷地調査、敷地配置、規模の検討、概算事業算出を行います。

【イメージ】



段階	何を考えるか	わかりやすく言うと
基本構想	必要な役割・機能・考え方を整理する	どんな施設が必要かを考える
基本計画	機能・規模・配置・運営を具体化する	どのような施設にするかを考える
基本設計	建物の配置や部屋のつながりを図面化する	建物のかたちを考える
実施設計	工事に必要な詳しい図面をつくる	実際に建てるための図面をつくる

(2) 事業スケジュール (案)

- 複合化施設の事業スケジュールは以下を想定しながら進めます。ただし、このスケジュールは順調に進んだ場合を想定しています。

令和8年度
10月頃を目処

基本構想

10月頃から
スタート

基本計画

令和9年度

基本設計

令和10年度

実施設計

令和11年度

工事着工

- どのような施設にするかが整理され、概算事業を算出します。
- 概算事業によっては、基本構想や施設内容を見直すことも考えられます。

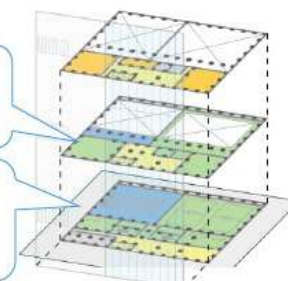
基本設計

- 基本計画を踏まえ、意匠を決定し、建築、構造、電気設備、機械設備等の基本設計を実施します

【イメージ】

基本計画で示した
導入機能等を整理し、
平面図・断面図・立面図
を検討

内外装仕上げ、概
略仕様、構造計画、
設備計画を整理し、
工事費概算を算出



実施設計

- 施工を考えてデザインと技術面の両面にわたって詳細な設計を行うとともに工事費の具体的な積算を行います

（３）検討委員会のスケジュール（案）

- 「御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会」では、下表のスケジュールで検討を進めることを想定しています。

	開催時期	協議事項（案）
第1回	6月	御影地区・現況施設の概要
第2回	7月	御影地区の今後のまちづくりの方向性と施設のあり方
第3回	8月	施設の導入機能①（基本方針と配置場所）
第4回	9月	施設の導入機能②
住民説明会	10月上旬	基本構想の骨子
第5回	10月	基本構想案について
第6回	11月	基本計画① 施設の規模、配置計画など
住民説明会	12月	基本計画に向けて
第7回	12月	基本計画②

2. 御影地区の概要

(1) 御影地区の概要

- 御影地区は、清水町東部に位置し、清水市街地と芽室町・帯広方面を結ぶ位置にあります。
- 1921(大正10)年に芽室村の大字羽帯村・佐念頃地区が分離し「御影村」として成立しました。
- 地名は産出された花こう岩「御影石」に由来しています。
- 1956(昭和31)年に清水町と合併しました。
- 行政・教育・交流・防災・生活サービスが集まる清水町東部の拠点として機能してきました。
- 御影地区は、農業地域としての性格と、生活拠点としての性格を併せ持つ地区です。周辺には畑作・酪農を中心とした農村景観が広がる一方、御影駅周辺には住宅地、学校、公民館、支所、消防分遣所、スポーツ施設などが立地し、清水町東部の生活拠点として機能してきました。

(2) 交通

- 1907(明治40)年旭川と釧路を結ぶ鉄道「十勝線」が開通し、佐念頃駅(のちの御影駅)が開設され、御影地区は鉄道とともに発展してきました。
- 御影地区には、鉄道に加え、地区内を国道38号が走っており、清水市街地や芽室・帯広方面とのつながりを支えています。
- 国道38号は、通勤・通学、買い物、物流など日常生活や産業活動を支える重要な交通軸であり、御影地区の生活拠点としての役割を担っています。
- 御影地区は、札幌方面と十勝方面を結ぶ都市間バスの停車地にも含まれています。

(3) 御影地区の人口

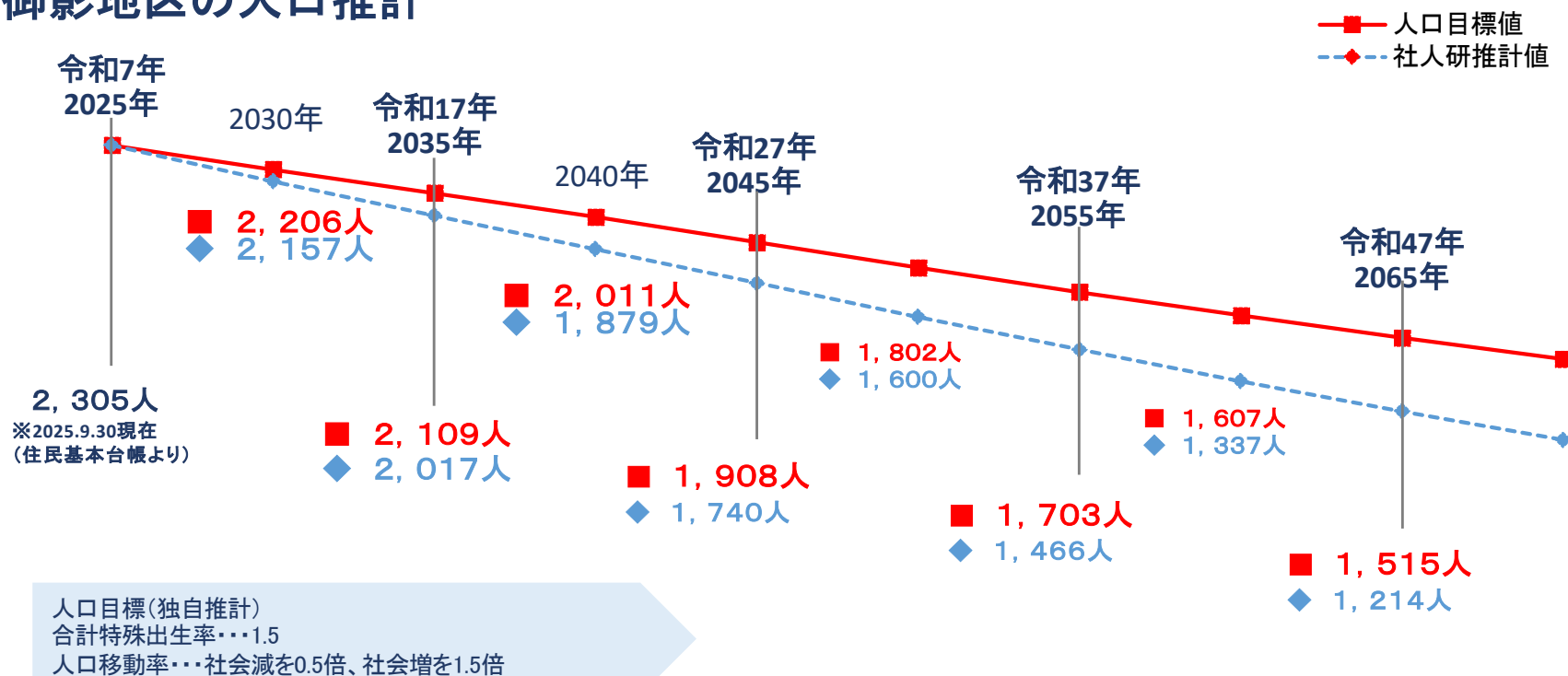
- 御影地区は、旧御影村を母体とする歴史ある地区であり、かつては独立した村として一定の人口規模を有していました。
- 1955（昭和30）年国勢調査時点の旧御影村の人口は5,222人でした。
- その後は清水町全体と同様に人口減少と高齢化が進んでいます。
- この50年ほどの人口推移をみると、1976年に2,828人だった地区の人口は、2025年は2,305人に減少しています（減少率22%）
- 1986（昭和61）年に790世帯だったのが、2025（令和7）年は1,252世帯と増加しており、1世帯あたりの人数が3.54人から1.84人と減っており、一人暮らしもしくは二人暮らしの世帯が増えていると推察されます。



(4) 御影地区の人口推計

- 清水町の人口推計と同様の考え方に基づいて御影地区の人口推計を行うと、2025年2,305人だった人口は、2030年に2,206人、2035年に2,109人、2040年に2,011人になることが想定されます。

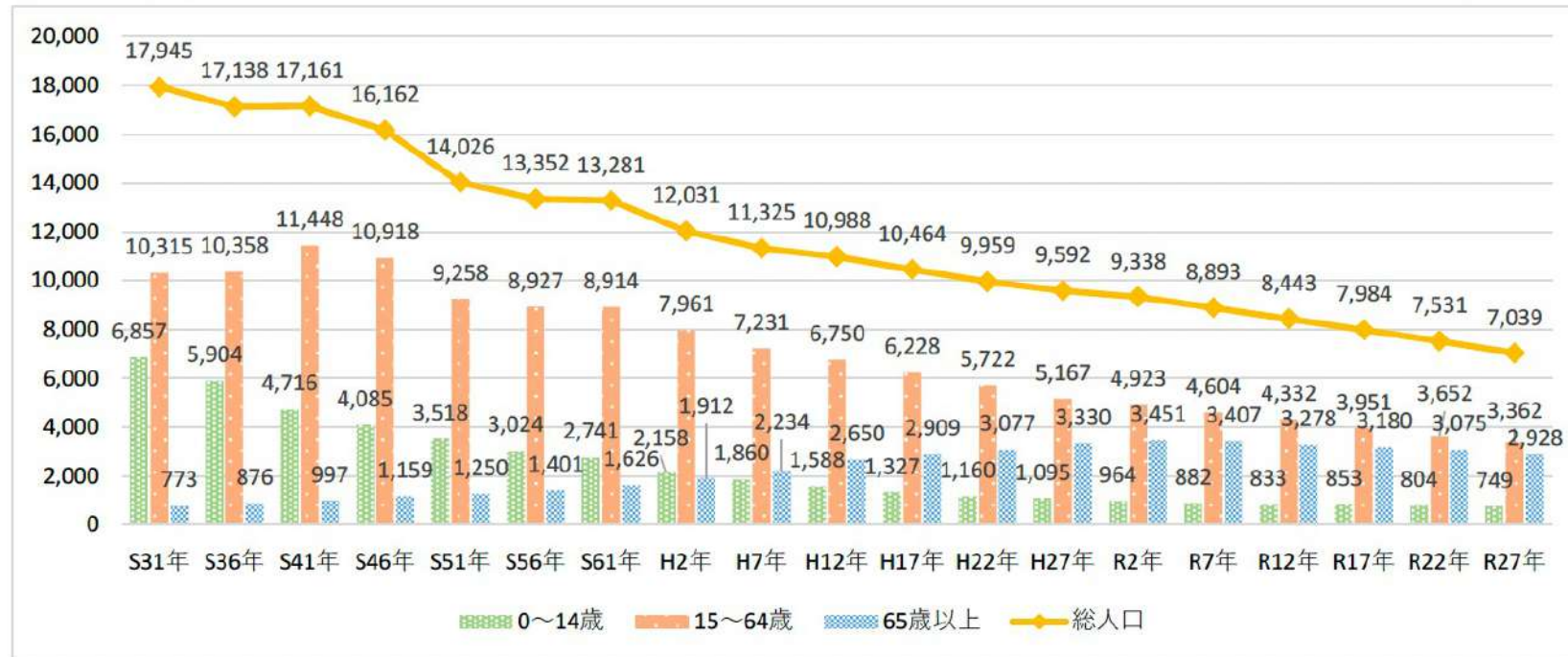
御影地区の人口推計



参考～清水町の人口(清水町個別施設計画より)

総人口の推移

(単位：人)



(人数)	S31年	S36年	S41年	S46年	S51年	S56年	S61年	H2年	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	R2年	R7年	R12年	R17年	R22年	R27年
0～14歳	6,857	5,904	4,716	4,085	3,518	3,024	2,741	2,158	1,860	1,588	1,327	1,160	1,095	964	882	833	853	804	749
15～64歳	10,315	10,358	11,448	10,918	9,258	8,927	8,914	7,961	7,231	6,750	6,228	5,722	5,167	4,923	4,604	4,332	3,951	3,652	3,362
65歳以上	773	876	997	1,159	1,250	1,401	1,626	1,912	2,234	2,650	2,909	3,077	3,330	3,451	3,407	3,278	3,180	3,075	2,928
総人口	17,945	17,138	17,161	16,162	14,026	13,352	13,281	12,031	11,325	10,988	10,464	9,959	9,592	9,338	8,893	8,443	7,984	7,531	7,039

3. 清水町の財政

(1) 清水町の予算規模

一般会計 歳入総額

98.5億円

令和6年度決算

一般会計 歳出総額

95.4億円

令和6年度決算

差引（黒字）

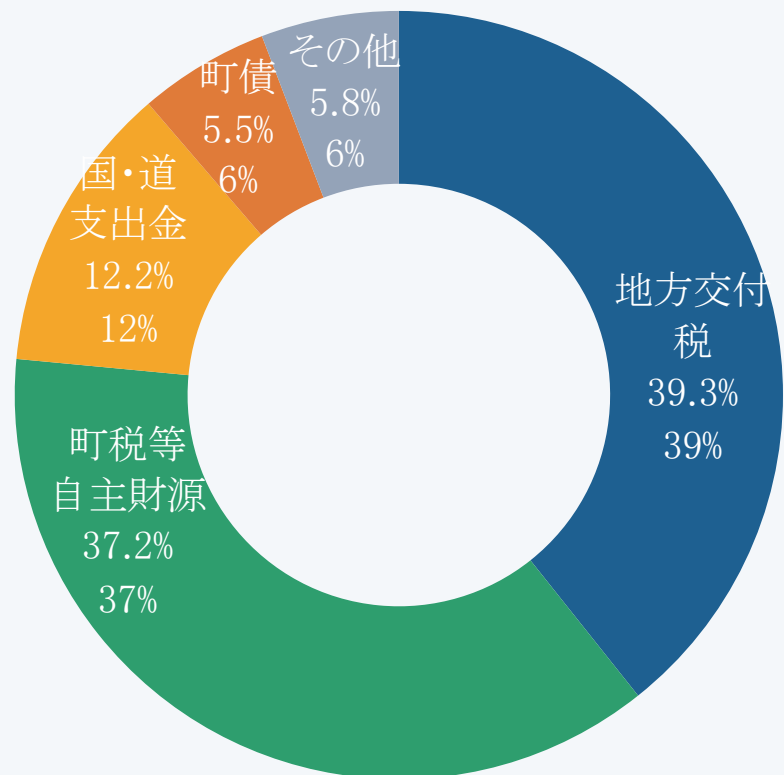
+3.1億円

健全な収支

わかりやすく言うと…

- 人口約 8,633人 の町が、1年間に 約98億円 を動かしています。
- 住民1人あたりに換算すると、年間約 114万円 の行政サービスが提供されている計算です。
- 財政収支は 黒字を維持 しており、現時点で財政は健全な状態にあります。

(2) お金の入り口 (歳入)



39.3% 地方交付税

国から配られる補助金。
財政力が弱い自治体ほど多く受け取れる。

37.2% 自主財源 (町税等)

町が自ら徴収できる収入。財政の自立度を示す指標。

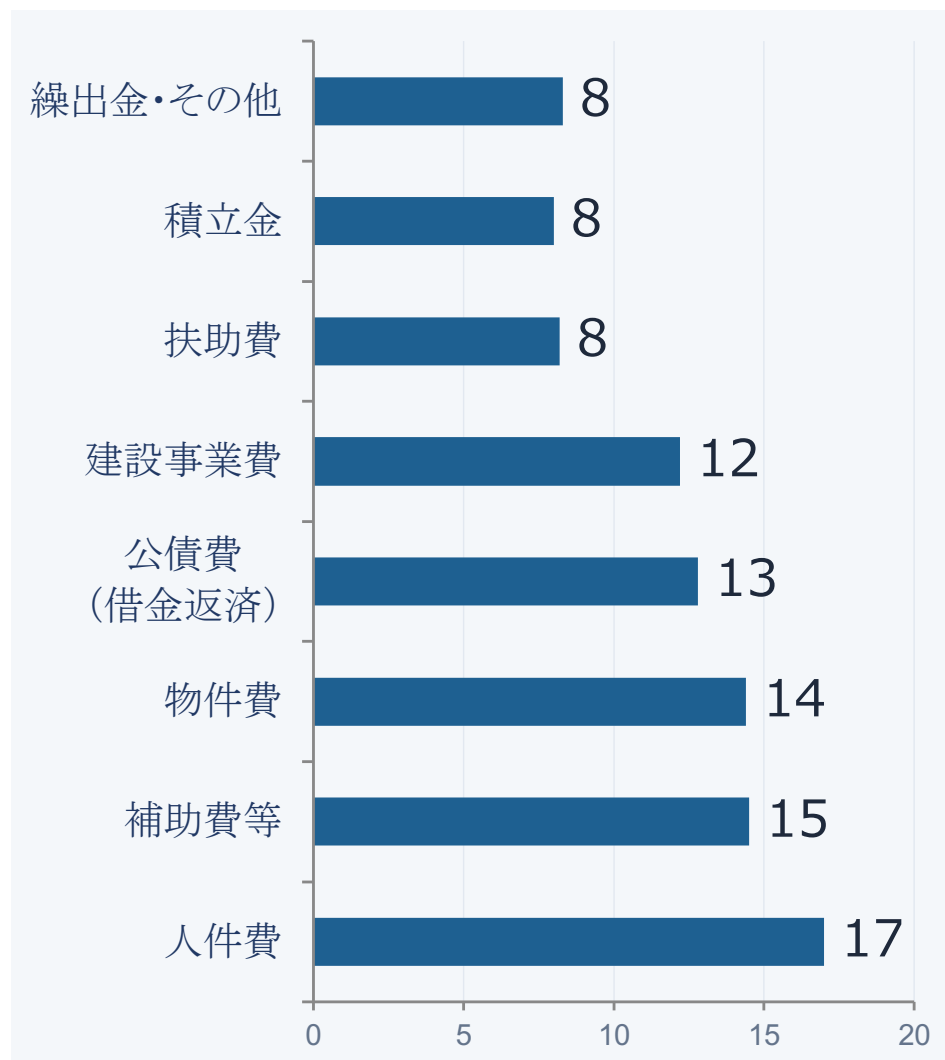
12.2% 国・道支出金

特定の事業(道路・福祉等)に充てる国・道からの補助金。

5.5% 町債 (借金)

施設整備等のための借金。
将来世代の負担となる。

(3) お金の出口 (歳出)



◆ 人件費 17.0 億円

職員給与など。
保育所・牧場を直営の部分も含みます。

◆ 公債費 12.8 億円

過去の借金の返済。
令和元年の保育施設建設分の返済が始まり増加中。

◆ 建設事業費 12.2 億円

道路、橋、公共施設の新設・改修。
施設老朽化で今後も増加するの可能性があります

(4) 財政健全化指標 — 財政の「健康診断」

財政力指数

注意

0.32

1.0 未満 = 交付税依存

稼ぐ力が弱い。1.0に近いほど豊かな自治体。全国町村平均の約0.33とほぼ同水準。

経常収支比率

注意

88.5%

目標 : 80% 未満

固定的な支出が増え、新しいことへの予算が出しにくい状態。目標の80%を超えている。

実質公債費比率

良好

9.4%

早期健全化基準 : 25%

借金返済の負担は基準を大幅に下回り健全。ただし施設整備が続くと上昇の可能性。

将来負担比率

良好

算定なし

早期健全化基準 : 350%

貯金(基金)が将来の借金を上回るため、比率は算定されず。財政の備えは十分。

(5) 今後の課題と見通し（推察）

人口減少による 財源縮小

人口が減ると、住民から集まる町税も減少します。
交付税の配分も将来的に変わる可能性があり、収入が細ってくる見込みです。

公共施設の老朽化と 更新コスト

御影地区の公共施設や体育館など公共施設が築50年超となっています。
施設を個別に更新していくと多大な費用が必要となり、財政をさらに圧迫する可能性があります。

借金返済額 （公債費）の増加

令和元年の保育施設建設の返済が始まり、公債費は増加傾向。
令和7～8年度には償還のピークを迎える予定です。

現在、清水町の財政は健全ですが、今後「人口減少 × 施設老朽化 × 借金増加」などで、何もしなければ財政は厳しくなる可能性があります。

4. 御影地区の公共施設の概要

(1) 御影地区の主な公共施設

- 御影地区には御影支所、御影公民館、世代間交流センター、清水町アイスアリーナなどが立地しています。
- 町の公共施設案内でも、御影公民館や御影公園多目的広場などがあります。
- 御影小学校があり、御影地区の子どもたちの学びの場となっています。

(2) なぜ今、見直すのか

- 施設が建設から40～50年経過し、更新の時期を一斉に迎えています。
- また、人口減少が進み、御影地区の人口規模に対して、施設が多く、すべてを同じ規模で維持・更新することは現実的に難しいと考えられます。





	延床面積(m2)	取得年	経過年数	耐用年数
御影公民館	1,186.30	1973年(S48)	53	50
清水町世代間交流センター	1,689.78	1991年(H3)	35	47
農村環境改善センター	1,562.12	1985年(S60)	41	47
消防署御影分遺所	612. 97	1974年(S49)	52	50

5. 複合施設の事例

(1) 小清水町役場

- ・ 小清水町(人口4,623人 2020年国勢調査)では、町民が日常を快適に過ごせる交流・健康拠点と、庁舎を一体化させた小清水町防災拠点型複合新庁舎「ワタシノ」を2023年5月にオープン。
- ・ 新庁舎には、町民が気軽に使用できる「にぎわいエリア」(コミュニティスペース、カフェ、ランドリー、フィットネスジム&スタジオ、ボルダリングウォール)を設置。
- ・ にぎわいエリアの運営は町のNPO法人グラウンドワークこしみずが担当

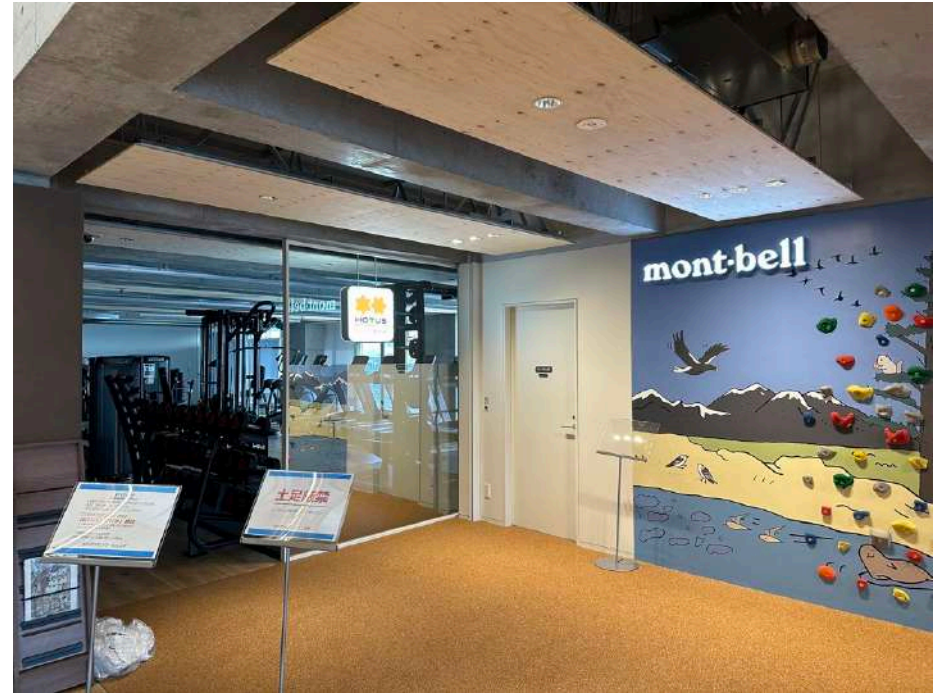
新庁舎「ワタシノ」の構成

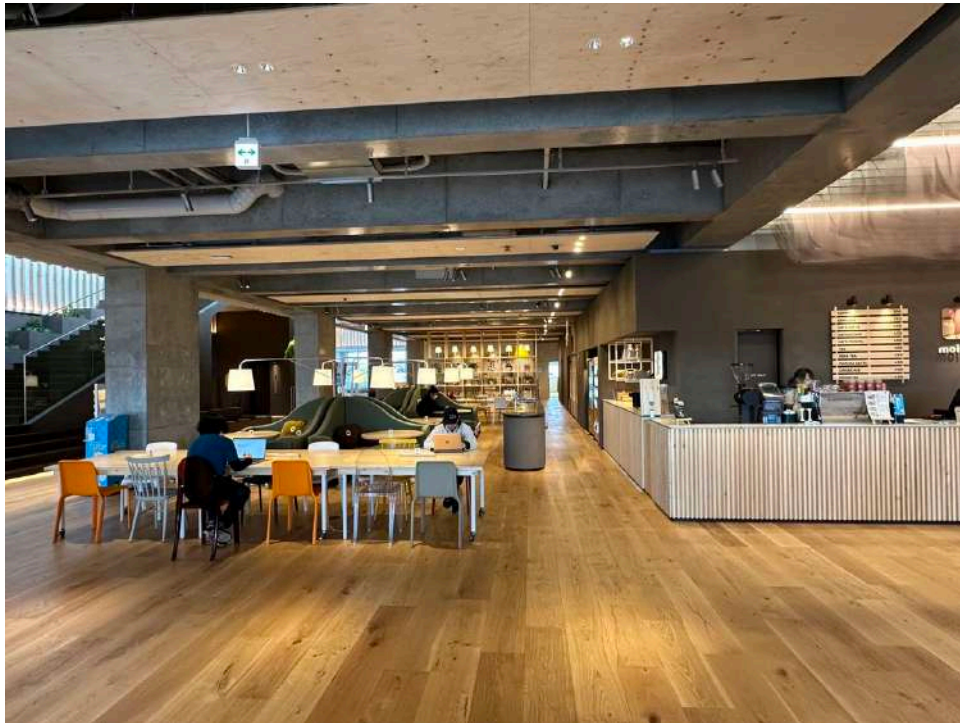


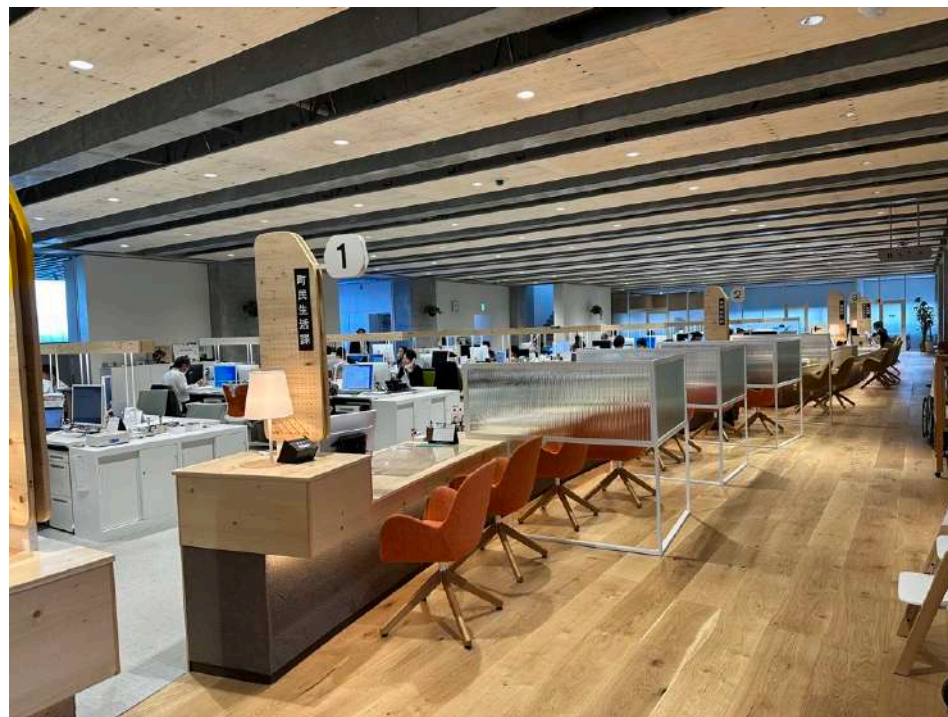
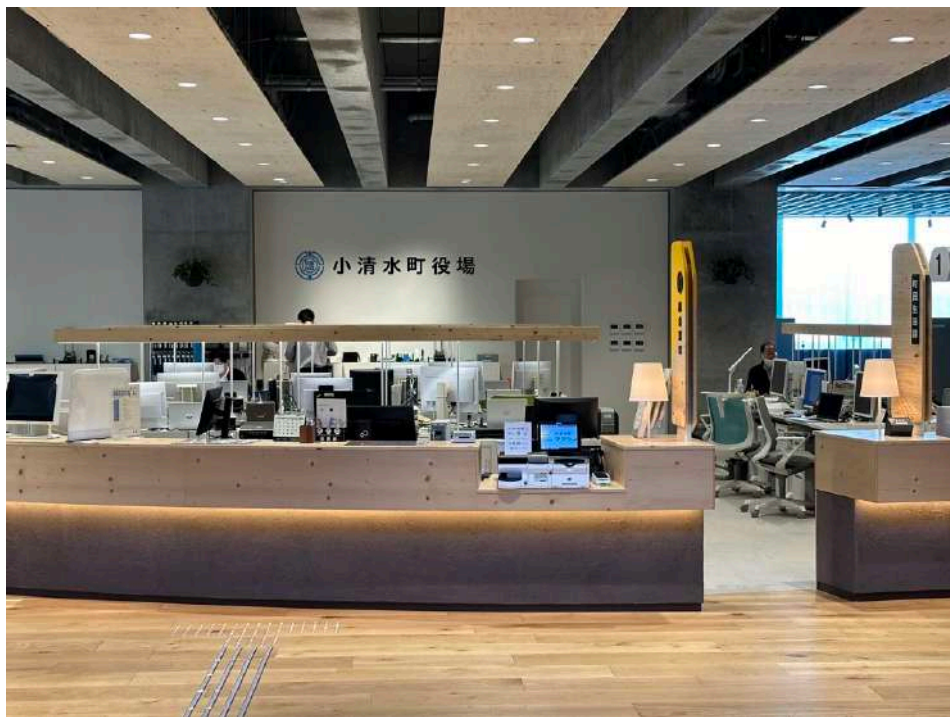
新庁舎「ワタシノ」の外観イメージパース



小清水町ホームページより







(2) 恵庭市えにあす

- ・ 恵庭市の「えにあす」は、恵庭駅周辺における公共機能の集約と民間施設の誘致による賑わいの創出を目的として整備された。
- ・ 施設の整備は、官民連携事業(PFI事業)として民間事業者が市有地を借地して建物を整備し、公共施設と民間テナントが賃貸借契約により建物に入居している。

